

【目的】

新たな森林・林業基本計画の達成に向け、上川総合振興局、地元市町村と連携し、木質バイオマスを安定的かつ効率的に供給するための取組を行う。

【これまでの成果と今後の見通し】

3年間の取組で南富良野町の木質チップ生産量が飛躍的に増加

H26年度 825m³

H27年度 1,512m³

H28年度 7,500m³

H29年度 14,000m³ (予定)

【平成28年度重点取組】

システム販売による安定供給

【取組状況】

伐捨間伐とせざると得ないものを相当程度含む林分を対象に、団地化した立木システム販売 6ha 7,931m³を平成28年2月に公募を実施した。



バイオマス用の間伐予定地踏査

共同施業団地における集約化、効率化

【取組状況】

南富良野町との共同施業団地において、路網・土場の共同利用に向けた協議を行うとともに、町が造林者である分収造林の間伐について、相手を選んで結ぶ契約方法を活用し来年度町に間伐立木を販売して地元チップ工場へ木質バイオマス資源を供給する方向で調整している。



共同施業団地の立木販売予定地

林地残材の集荷に関する生産性を調査

【取組状況】

伐採・再造林における資源の有効活用・低コスト化を民有林林業へ普及するため、木質バイオマス集荷及び低コスト造林に係る現地検討会を企画し、9月下旬の開催に向けて準備を重ねた。現地検討会において配布予定の説明資料については出席予定機関に送付するとともに、推進チーム会議の中で市町村等に対し説明、発表を行った。



バイオマス対応型フォワーダ機能調査

【成果】

木質バイオマスを加工する者の要望を適切に踏まえて、木質バイオマスの供給に繋がるものである。

【成果】

南富良野町・森林組合が原材料を安定的に確保することに繋がった。

【成果】

関係市町村担当者、森林組合等に木質バイオマスの効率的な集材に関して関心を持ってもらえた。

【今後の取組】

●平成29年度においても、木質バイオマスの有効利用による南富良野町の地域活性化に向け、立木システム販売によるバイオマス安定供給、共同施業団地における路網・土場の共同利用、林地残材の集荷生産性調査の重点取組事項について引き続き関係機関との連携を図りながら推進していく予定。